世相雑感

レジャーとはなんぞや

大阪大学経済学部　高　田　　馨

昭和25年ごろ，ゼミ学生諸君と潮岬に旅行したことがある．あの頃は潮岬は本当に牧歌的な美しい自然の姿であった．ところが，そのあと10年ほどして同じ潮岬を訪れたときはまったく失望した．変な人工＝虚構の建物がギッシリ並びアゲ底みやげを並べて商魂をむき出していたのだ．比叡山も同じような経過をたどった．

山にも海にも「レジャー産業」というおかしな名の「産業」が横行している．大衆はまんまと乗せられて自然環境破壊に拍車をかけ自滅の道をひた走っている．

「レジャー産業」というときの「レジャー」はレジャーの本当の意味を知らないか，知っていてもわざと無視しているかである．

レジャーの通俗的解釈によると，一日24時間から「眠っている時間」８時間を引いた16時間（「目を覚している時間」）が労働時間とレジャーに分けられる．「目を覚ましている時間」16時間は一定であるから，レジャーを多くするには労働時間を減らせばよいということになる．二百年前は，「目を覚ましている時間」waking hours＝「働いている時間」working hours であって，レジャーはゼロであったらしいが，いまでは，技術革新のおかげで労働時間とレジャーが半々となった．しかし，労働時間は拘束時間であり苦痛時間であるとおもわれていたから，レジャーは直ちに自由時間，遊ぶ時間，快楽時間と解釈された．この自由時間というのはよいが，これを直ちに遊ぶ時間，快楽時間というように結びつけて「レジャー産業」という名のもに人を遊ばせ金もうけをたくらむアニマルがと出現したのである．

そもそも，レジャー（leisure）の本来の意味は学習（schooling）であり静思（contemplation）〔busy，businessに対する〕である．「レジャー産業」は学習，静思に貢献しているとはおもえない．

私見では，レジャーの本質を，学習や静思を含めてもっと根本的に解釈したい，私は，レジャーとは主体性の時間と解釈したい．ウェブスター大辞典をみると，レジャーの説明のなかに“time at one's command”というのがある．これこそレジャーの本質である．各人の自分自身の主体的選択の時間こそ本当のレジャーである「レジャー産業」のいいなりに働くことは，他人の選択にまかせた時間となってしまう．私は遊びや快楽を悪としたりやめよというのではない．「レジャー産業」に振りまわされて主体性を失ってはいけないというのだ．せっかくかちとった貴重なレジャーを他人に支配される時間にしてしまうのはモッタイないではないか．

それにしても，「レジャー産業」はますます隆盛のようだ．山の海の自然を人工でこわす「レジャー産業」にあやつられた大衆は自動車を買わされ遠乗りして貴重なガソリンを浪費し大気を汚し山や海にゴミを投げすて自然をいじめている．大衆各人がそれぞれの欲求を「主体的に選択した」方式で思いおもいに満足しているというなら文句はつけられない．とすると，結局の問題は選択の主体である人間そのものにあるということになる．

「レジャー産業」にあやつられて自然破壊に加担していると，必ず，そのうち自然から仕返しを受けるであろう．いや，もうすでに受けている．

片や「レジャー産業」に乗せられて浮かれているかとおもえば，片やそれぞれの「大義名分」のもとに戦争やゲリラで人殺しが世界中で行なわれている．これらがみんな「主体的選択」によってなされているなら，やはり，「馬鹿は死ななきゃ直らない」．人類は自滅する価値をもっているようだ．